

令和4年度「保健」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	全	保健体育	体育	3	必修
教科書	高等学校 保健体育Textbook, Activity (第一学習社)				
副教材	保健体育ノート(第一学習社)				

学習の目的

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

学習の目標

評価の内訳

I 知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につける。	6
C 思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、社会的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	2
E 学びに向かう力・人間性等	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を養う。	2

つきたい力

課題を発見し、合理的、計画的な解決に解決を通して、心と体を一体と捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力

評価方法

I C E

◇	平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し、なおかつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断します。			
◇	授業への取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表の状況などを評価の対象とします。			
◇	課題やレポートなどの提出物では、提出期日や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とします。			

履修上の注意および学習のアドバイス等

◇

年間指導計画

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	考査	思考を深める問い (C-E)	I: 知識理解	C: 思考判断表現	E: 学びに向かう力・人間性
第1学期	4	第2章 安全な社会生活 第1節 安全な社会づくり 1. 交通事故と安全の確保(教p.48~49)	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。		交通事故を防止するために必要な行動について知り、事故を回避するための、適切な行動を選択できる。	○	○	○
	5	第2節 応急手当 1. 適切な応急手当の手順(教p.52~53)	・応急手当の重要性を知り、傷病者の観察や応急手当の正しい手順についての理解を深める。		実際の手当が必要な傷病者に遭遇した場合に、必要な行動を適切に選択することができる。	○	○	○
	6	2. 心肺蘇生法の実践(教p.54~55) 3. 日常的な応急手当(教p.56~57)	・胸骨圧迫・気道の確保・人工呼吸の心肺蘇生と除細動を加えた心肺蘇生法について、正しい手法を理解し、身につけることができるようにする。	期末考査	心肺蘇生法が必要な傷病者に対して、必要な行動を適切に選択することができる。	○	○	○
	7	第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方 1. 国民の健康水準の向上と変化する健康課題(教p.6~7) 2. 健康の保持増進とヘルスプロモーション(教p.8~9)	・死因別にみた、わが国の死亡率や患者の病気の傾向について理解できる。 ・新しい病気の傾向について、具体的な事例を踏まえて理解できる。 ・「ヘルスプロモーション」の定義について理解することができる。 ・健康を保持・増進するための環境について理解することができる		日常生活において、自らの健康を考えて、病気を予防しようとする意識を醸成することができる。 健康増進の取り組みについて、自らの生活に当てはめて考え、積極的に健康増進を図ろうとすることができる。	○	○	○
第2学期	9	第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 1. 喫煙と健康(教p.26~27) 2. 飲酒と健康(教p.28~29) 3. 薬物乱用とその防止(教p.32~33)	・喫煙者本人のみでなく、周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 ・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 ・薬物乱用は、心身の健康に対して深刻な影響を与えることを理解し、絶対に薬物に手を出さない強い意志を身につけることができるようにする。		喫煙による健康への影響だけでなく、喫煙マナーのあり方についても考えることができる。 飲酒による身体器官への影響だけでなく、精神的な影響についても考えることができる。 薬物乱用を防ぐためには、どのような意識をもつことが重要であるかを考えることができる。	○	○	○
	10	第2節 現代の感染症とその予防 1. 感染症の予防(教p.10~11) 2. 性感染症とその予防(教p.14~15)	・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。 ・性感染症の予防について正しく理解することができる。 ・HIV感染症・エイズの治療法を正しく理解することができる。		感染症の現状を知り、予防するための方策について考えとともに、人権への配慮ができる。 性感染症を予防するための方策について考えとともに、人権への配慮ができる。	○	○	○
	11	第3節 生活習慣病などの予防と回復 1. 生活習慣病の予防(教p.16~17)	・生活習慣病の原因と、その予防に関する3つの段階について正しく理解することができる。	期末考査	自らの生活習慣をかえりみて、生活習慣病予防のための適切な行動を選択することができる。	○	○	○
	12	4. がんの発生と予防(教p.22~23) 第5節 精神疾患の予防と回復 1. 脳と神経の働き(教p.36~37)	・がんを早期に見出すことの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。 ・がんの発生のメカニズム、発がん物質、また発がんの原因となる行動を知り、その予防と治療法についての理解を深める。 ・人間の行動や精神活動などの全てをコントロールしている。脳・神経系・内分泌系の各部の働きについての理解を深める		がんの予防について、生活習慣との関わりを相互に考えることができる。 自らの行動と、そのときの脳の働きについて、関連づけて考えることができる。	○	○	○
第3学期	1	2. 欲求不満と適応機制(教p.38~39)	・人間の欲求は様々なものがあるが、その全てが満たされるものではないため、欲求不満に対する耐性を身につけることの重要性についての理解を深める		欲求不満を回避するために自らがとった行動を、適応機制と関連づけて考えることができる。	○	○	○
	2	3. 心の健康と精神疾患(教p.40~41) 4. 精神疾患の予防と回復のために(教p.42~43)	・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。 ・精神疾患は誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な処置により回復が可能であることについて理解を深める	学年末考査	心の不調について、自らの体験と関連づけて考えることができる。 精神疾患の予防と回復について、習得した知識をもとに心身の健康を保つための行動や対策について考えることができる。	○	○	○
	3	2. 安全・安心な社会づくり(教p.50~51)	・安全に暮らすための対策を知り、意識や行動についての理解を深める		安全・安心な社会づくりのために行われている対策について知り、安全に暮らすための行動を適切に選択することができる。	○	○	○

※行事等で変更になる場合があります。